

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 24 年度第 2 回情報教育研究委員会情報専門教育分科会 議事記録

I. 日 時：平成 24 年 6 月 25 日(月)午後 7 時～午後 9 時

II. 場 所：私学会館アルカディア市ヶ谷

III. 参加者：大原主査、須田委員、渡辺委員、西村委員、高田委員、斎藤トバ伊
企業トバ伊：日本アイ・ビー・エム、ネットマークス、日立製作所、ワ・コーポレーション
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本

IV. 検討事項

1. 教育改善モデルのポイントについて

- ・ 到達目標の到達度から、到達度をクリアするためにどこまで出来て、なにが出来ていないかをねらいで書き、出来ていない部分の提案をしたい。授業の仕組みでは、実現のための組織的な取り組みなど新しい要素を取り入れた創発的な授業を記述する。また、その具体化としてシナリオを記述する。

2. 到達度の見直しと教育改善モデルについて

(1) 情報通信系

- ・ 一般レベルは「理解できる」にし、専門レベルでは「説明できる」にしている。5年先を目指して参考になるようなインパクト・オリジナル性のあるものを希望している。冒頭のレベル説明に、専門レベルの説明に「一般レベルに加えて」の記述を追加する。
- ・ グローバルな視点や要素を入れられないか。
- ・ 到達目標 1, 4 あるいは到達目標 4 だけの提案ではどうか、到達目標 1, 2, 3 はそれぞれの大学で実施していると考え、4 を提案として選択してはどうか。
- ・ 大学間連携した仕組みなどが出来ないか。創発的な取り組み。ビジネスモデルに沿ったモデルなど。
- ・ 具体的な豊かな社会のイメージ、ネットワーク・サーバ・プログラミングの技術的柱、マルチプラットフォームで何が出来るか。全体の流れから社会及び技術的視点をつかませる時代になっている。
- ・ 大学の情報通信系で夢を持たせて価値のある能力を見つけること。基礎、ツールを使いこなす部分とインパクトのある部分を持たせる。
- ・ 統合授業では、1～3年で学んだ内容を統合して一気通関で統合授業出来る仕組みや e ラーニングで振り返りが出来る仕組みが考えられないか。
- ・ 提示されたモデル案(ねらい)を基本に、ポートフォリオや産業界との連携、大学内での連携などの取り組みを検討したい。
- ・ 到達目標 4 の到達度については、再度見直しをかけることにした。

(2) コンテンツ・サービス系

- ・ コンテンツは元々従属的でクライアントの依頼の範囲であった。コンテンツの価値や迫力を入れられないか。開発型の人材を育成することになるのか。
- ・ コンテンツの利用、そこから新たな価値が生み出される社会になってきている。
- ・ 万人が楽しみながら豊かな社会になることを考える。到達目標 4 でモデルを検討することにした。

V. 今後の予定

- ・ 情報通信系の教育改善モデルは 2 モデル「到達目標 3」「到達目標 4」とし、教育改善モデルの案について、次回は「授業のねらい」「授業の仕組み」「授業に ICT を活用したシナリオ」「授業に ICT を活用した学習内容・方法」までを検討する。
- ・ コンテンツ・サービス系の教育改善モデルは 1 モデル「到達目標 4」とし、教育改善モデルの案について、次回は「授業のねらい」「授業の仕組み」「授業に ICT を活用したシナリオ」「授業に ICT を活用した学習内容・方法」までを検討する。
- ・ 学士力の考察についても見直しをかけることにし、とくに情報通信系の到達目標 4 の到達度について見直しをかけることにした。
- ・ 次回 7 月 28 日(土) 9:30～11:30 を予定。